

Medical News

基本理念

私達は、患者様とその御家族の立場に立った医療の推進に努めます

謹賀新年

あけましておめでとうございませう。
旧年中は一方ならぬご厚情を頂き、誠に有難うございました。

さて私ども高松医療センターは、最近の医療情勢や地域医療構想など、医療を取り巻く環境を踏まえ、急性期から亜急性期、回復期、慢性期までを含めた、幅広い診療の出来る病院を目指しており、それに合わせた病棟機能の転換も図りつつあります。

現在当院は、一般内科および呼吸器・神経筋・糖尿病内分泌・消化器の各専門分野を合わせた内科9名と、整形外科1名の常勤医師により、内科系疾患全般、結核・神経難病などの政策医療、リハビリテーションを中心とした診療を展開しています。また、循環器内科・外科・整形外科・泌尿器科・皮膚科の非常勤医師による外来および入院患者診療、耳鼻科・眼科の非常勤医師による入院患者診療も継続しているところです。

地域医療への

貢献を目指します

当院の地域における役割を全う出来るよう、中核病院との連携においては、超急性期を過ぎた患者様や、急性期病院から引き続き入院の必要な患者様の積極的な受け入れを行っています。また地域の診療所や介護施設などとの連携においては、中核病院での専門診療との中間に当たる施設として、様々な患者様を受け入れる役割を担って行きたいと考えています。

リハビリの継続

在宅への推進に努めます

具体的には、落ち着いてリハビリテーションの継続が望まれる方や、高齢であったり合併症が多いために在宅復帰までに時間を要するケース、退院後の在宅療養の環境整備や施設入所待ちに時間のかかる場合など、

亜急性期から回復期の患者様の受け入れをしていくことが挙げられます。

人工呼吸管理

終末期医療に取り組みます

また、急性期治療を終え慢性的に人工呼吸管理を行っているために長期の入院継続を必要とするケース、看取りを含めた終末期医療の必要なケースなど、幅広い層の患者様を受け入れながら、きめ細かいケアが可能な療養環境を提供して行きたいと考えています。

病院と病院の連携を

推進してまいります

香川大学医学部附属病院をはじめとした中核病院と地域の先生方とのスムーズな橋渡しを行うと共に、当院の診療可能な範囲で出来るだけ多くの患者様の受け入れを行きたい所存であります。

今後さらに病院連携を含めた地域連携を推進してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



院長 細川 等

あけまして おめでとうございます



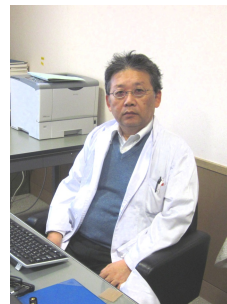
高松医療センター
マスコットキャラクター
新田乙八

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、第5病棟で療養介護事業が開始されました。これまで特定疾患（いわゆる神経難病）の枠内で医療・看護を受けていた人工呼吸器を装着した重症の患者様が、障害者総合支援法に基づく介護も受けられるようになりました。ただし自己負担が発生しますので、各患者様のニーズに合わせたサービス提供が図られねばなりません。

今年は、第3病棟でも同様の事業開始を予定しており、医師・看護師・療養介助員のチーム医療が更に重要となります。病院全体の協力が必要です。また療養介護事業以外にも、癌ターミナルケアを必要とする患者様の長期療養を予定しています。これは細川院長が、連携医療機関との会話の中から多くの患者さんが長期療養先がなく困っているという実情を知り構想されたものです。

地域に必要とされる限り我が病院は永久に不滅です（長嶋選手の引退の言葉より）



副院長
藤井正吾

新年明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。

平成30年度診療報酬改定に向け看護部門に関連する議論の進捗が気になりな今日この頃です。

さて、昨年7月、神経難病病棟において主に気管切開を伴う人工呼吸器による呼吸管理を行っている神経難病患者様を対象に療養介護事業を開始しました。新たに介護職員（療養介助員）を採用し、人工呼吸器管理を含めた医療的ケアとQOLの充実に努めております。

そして今年も、健康フェスタ、旧高松城まつり、ふれあい看護体験など、地域の皆様に当院を知っていただく活動を継続して地域に根ざした病院としての役割を担ってまいります。

また、地域包括ケアシステムの構築に向けて、病院の看護師と地域在宅の看護職との連携（看一看連携）強化に努める所存です。皆様のご健勝とご発展をお祈りするとともに、今後ともご支援ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



看護部長
山下久美子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆様には今年も良い年でありますように、心よりお祈り申し上げます。

今年には診療報酬・介護報酬の同時改定のほか、第7次医療計画・介護保険事業（支援）計画のスタート等、今後の医療・介護施策において極めて大きな節目の年となります。

当院においても、今後どのように病院・療養介護サービス事業所を運営すべきか、昨年より医療機関・開業医の先生方、老人保健施設や特別養護老人ホームの方々のご意見を伺いながら今後進む方向について検討してまいりました。今後は皆様からのご要望に更に応じられるよう、中長期患者の受入を積極的に進めるとともに、神経筋疾患はALS中心から、それ以外の疾患に診療範囲を拡大する方針を決め、取り組んでいくことといたしました。

この転換が吉と出ますよう、新たに受入対象範囲を拡大した疾患につきましても、一層の連携をお願いしたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



事務部長
嘉数和俊



独立行政法人 国立病院機構

高松医療センター

〒761-0193

香川県高松市新田町乙8

TEL:087-841-2146 FAX:087-841-2178

URL:<http://www.takamatsu-mc.jp/>



発行責任者: 病院長 細川 等 編集責任者: 地域医療連携室